

令和8年度 東三河総合体育大会 剣道 における試合・審判について

東三河中小体連 剣道競技
副部長 野尻 祐揮

1. 試合運営について

- 試合場は、6試合場とする。会場係は中学生4名が行う。
- 1日目、男女の個人戦を行い、2日目に男女の団体戦を行う。
 - ・個人戦団体戦ともに、第1試合目からトーナメント戦とする。
- 試合の参加人数について
 - ・団体戦は、選手5名、補員2名とする。
 - ・試合をする学校の待機場所への整列は、選手、補員、監督1名(校長・教員・外部コーチ)のみ。
 - ・個人戦において、1名の練習相手を認め、試合時にあっても、競技場内への入場を認める。
- 大会会場館内への入場について
 - ・観客席は、地区で割り振られている。割り振りに従って譲り合って席を使う。
 - ・競技場内は、大会役員、競技役員、審判員、補助員、監督、コーチ、選手、補員のみとする。
 - ・試合が終わったチーム・選手は、できるだけ早く会場を退出すること。
- 審判会議、監督者会議について
 - ・審判会議を会議室で行い、監督者会議は行わない。大会に関する諸注意等は、各地区運動部員を通じて、すでに連絡済みとする。
- 竹刀の検量について【竹刀に学校名と名前を書く】
 - ・入口横のスペースで、8:30～9:20まで実施予定。(状況によって時間は前後する)
- 各校で靴袋を持参し、各自または各学校で靴の管理を行うこと。
- 監督(コーチ)、選手の応援は拍手のみとし、声援は禁止とする。
- 昼食は観覧席でとること。競技場内での水分補給は可能。
- 東三大会のタイムテーブルについては、別紙を参照。

2. 面マスク及びフェースシールドについて

- 選手は、面をつけている時は、面マスクまたはシールドを着用する。面をつけていない時は、個人の判断とする。審判員は、マスクは着用しない。控え席でのマスク着用は個人の判断とする。

3. 延長戦について

- 延長戦は2分ずつ区切って行う。
- ・試合時間3分⇒延長2分⇒延長2分⇒【小休止(深呼吸をする程度)】
⇒延長2分⇒延長2分⇒【休憩(面を外して給水)】
 - ※上記を繰り返す。
- 【小休止】⇒開始線の位置で10秒程度の深呼吸。
- 【休憩】⇒立ったまま納刀し、待機場所に戻って面を外し、各試合場の待機場所で水分補給を行う。試合再開までの時間は5分とする。その際、監督は選手に指示をしない。

4. 試合場の注意事項について

- 面、小手、胴を同時に防御する変形な構えをとった場合は、指導・反則の対象となる。
- 蹲踞の始めと終わりを正確に丁寧に行う。「始め」は抜きながら蹲踞し、「終わり」は納刀した後、右手を右太股においてから立ち上がる。
- つば(鰐)競り合い解消に至る時間は「一呼吸(3秒程度)」。
- つば(鰐)競り合いを解消する場合は双方がバラバラに下がらない。また、双方が徐々に下がるのではなく、正しい鰐競り合いから鰐と鰐で競り合う力を利用して積極的(一気)に解消する。
- つば競り合いの際、裏交差になっている場合は、正しいつば競り合いに戻してから、或いは戻しながら解消する。再三繰り返される場合は、合議の上、反則を適用する。
- 公明正大に試合ができていないと判断した場合は反則となる。
- 不備のある剣道具(手の内の破れた小手、ささくれのある竹刀等)は使用禁止。

※「剣道試合・審判規則・細則」ならびに「剣道試合・審判・運営要領の手引き」および「日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項」に準ずる。